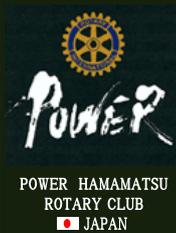


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

小さな歯車 地球を回す

RI 会長 ゴードン R. マッキナリー / 第 2620 地区ガバナー 中村皇積 / 会長 伊藤勝人 / 幹事 土屋公良
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第965回例会2月6日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 30 階 パガニーニの間
- 司会：小田木基行 高部光司
- 点鐘：伊藤勝人
- 週報：町田拓郎
- ロータリーソング：「奉仕の理想」
- ゲスト：NPO 法人はままつ子育てネットワークぴっぴ理事長 原田博子様
米山記念奨学生 ヤオ ファンボさん

出席報告/スマイル報告

会員数 70 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 45 名 出席率 65.22%

スマイル提出者氏名掲載
社会奉仕部会・松本太一、小田木基行、
武田信秀

会長挨拶

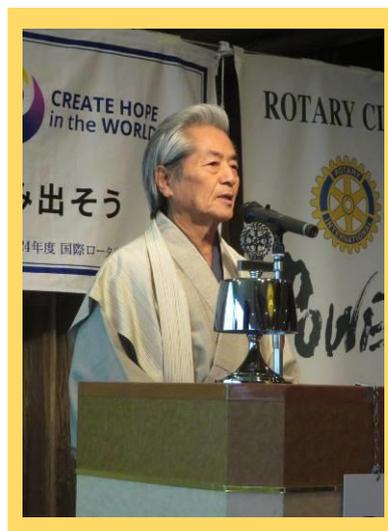
おはようございます。先週は節分でしたね。私は小学校三年生の時の学芸会で、地元の映画館のステージで「泣いた赤鬼」の、赤鬼の役を演じたことがあります。お話の中で赤鬼は、村人と仲良くなりたくて何度も遊びに行くのですが、村人は怖がって、みんな一斉に逃げてしまうんですね。そこで、赤鬼は、「人間と友達になって仲よく遊びたいんだ」と親友の青鬼に相談をしますと、青鬼は、「いい考えがあるよ。青鬼の僕が、村人を襲って乱暴をして泣かせる。そこに赤鬼の君が飛び出してきて、悪い青鬼の僕をやっつけて、追い払えばいい。」そうすれば、村人達は、赤鬼はいい鬼だ、と言って友達になってくれるだろう、と言い、実行をして成功しました。

赤鬼は、村人と楽しく暮らせるようになったので、青鬼のところへお礼に行くと、青鬼の家は留守で、手紙が置いてありました。

「青鬼の僕がいると、赤鬼君に迷惑がかかるから、遠くに旅に出ます。いつまでも村人と仲良くして、幸せになってください。」

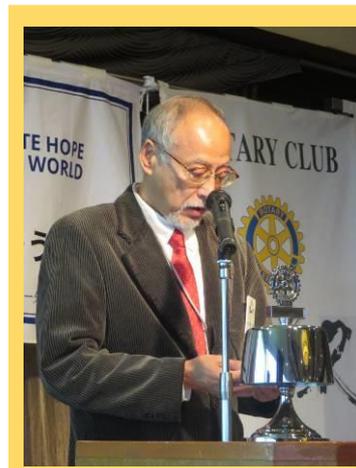
その手紙を見て、赤鬼は、「自分だけが幸せになってしまった。青鬼くんのことを少しも考えず、自分はなんて馬鹿だったんだろう。」と、さめざめ泣いて謝るというお芝居なのです。

2月の節分になると、人間と同じように悪い鬼もいれば、友達を思いやる良い鬼もいるのに、どうして「鬼は外」と言って豆で追い払うのかな、と思っていた子供の頃の自分を思い出します。地域によっては定かではありませんが、福は内、鬼も内、という豆まきもあるそうですね。それでは、今日もよろしくお祈りします。



幹事報告

- ・レターケースにロータリーの友 2月号と寄付金の領収書を配布しました。
- ・おととい2月4日は立春でした。その日の早朝に搾った新酒で一年の幸せと健康を祈願するお酒が「立春朝搾り」です。日本酒好きな方にはとても嬉しい口実です。飲んで無病息災といきたいところですが、浜松市の感染症発生動向調査では、1月8日から14日までの定点医療機関当たりの患者数が1週間あたり8.86人となり、県が設定している感染拡大注意報レベルになりました。感染者が急増する恐れがある状況とのことです。このような状況の中、今月18日にIMが開催されます。講演は矢野邦夫先生の感染症についてです。感染予防はこれまで通り手洗いとうがい、人混みでのマスク着用が基本です。お互い気をつけましょう。
- ・さて、本日の卓話をお願いしました原田博子様、ようこそおいでいただきました。このあとよろしくお祈りいたします。以上、幹事報告です。



委員会報告

■副幹事 藤田光弘

いよいよ次年度が近づいてまいりました。あと5ヶ月後には新年度が始まります。次回2月13日(火)はクラブ協議会になりまして、次年度のことを決めていく例会になります。1月の役員理事会で次年度の新しい組織が承認されたので、皆様に新しい組織図を、オールパワーで流させていただきます。

お座りいただくテーブルの席次も同時に配信させていただきますので、次回は新しい委員会の席へお座りいただき、副会長並びに委員長と打ち合わせをしていただければと思います。とはいっても今はまだ2月ですので、ほとんど決まっております。

顔合わせだけになるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。以上、副幹事からの報告です。



議事

■NPO 法人はままつ子育てネットワークぴっぴ理事長 原田博子様

今日は子供の貧困についてお話をさせていただきます。その前に私どもの自己紹介をします。まずは「ぴっぴ」についてのご説明ですが、ぴっぴとは全国初の浜松市の子育て情報サイトです。18年前にスタートし、それ以降は官民共同という形で子育て情報は全てこちらで管理させていただいております。

主な活動内容は、転入者や共働き家庭の為の交流会や、発達障害のお子さんを持つ親御さんの交流会などを行っています。他には子育て中のママにも学びの場を提供し、地域ぐるみで支援する「浜松ママゼミ」を開催しており、地元企業6社の協力を仰ぎながら、その事務局も務めています。就労関係はハローワークと一緒に母親の再就職支援に携わっています。また、浜松医科大学の学童保育を夏休みだけ委託を受けて実施しております。それから防災関連につきましては、防災学習センターの講座やイベントを開催しています。一昨年前には静岡の清水区で水害がありました。その時は東部中部西部のネットワークを使って、清水区の子育て家庭に支援物資を送るという事業を行いました。

その中で私どものミッションというのは、やはり企業、行政、教育機関、地域との連携です。当事者視点を大事にして事業を行っていくというものです。



ではここから本題です。子供の貧困は今や7人に1人が貧困家庭だと言われていています。子供の貧困には絶対的貧困と相対的貧困の2種類があります。絶対的な貧困とは、最低限の生活を維持することができない状態を言います。

問題は2つ目の相対的貧困です。これは「周囲の生活状況より劣った生活状況」という事ですが、見えにくい貧困です。これが実際の日本の貧困の現状です。表面上は本当に普通に見えるけれども、実は貧困という家庭が多いです。こういう状況が日本の現状となっております。

日本の17歳以下の子供の相対的貧困率は、2021年は11.5%ですが、今は確か15.4%に上がっていると思います。相対的貧困の基準としては世帯年収が127万円が目安です。また、貧困に関連付けてしまうのが母子家庭です。浜松市だけではなく、母子家庭は父子家庭に比べると貧困率は高いです。

続きまして、浜松市の事業を二つご紹介します。

一つは浜松市学習支援事業です。経済的な理由や家庭環境で学習支援を必要とする小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒の希望者に向けて支援しています。

二つめは子育て家庭向けのフードパントリーという事業です。昨今の物価高騰の影響により、さらに子供が困窮し社会的孤立に陥らないよう、食料品や生活用品などの無料配布会を開催しています。

浜松市の子供食堂は38箇所程ありますが、物価高騰で逼迫していて、もうやめようかと考えている食堂もあるそうです。そういった中で、ロータリークラブさん等から支援をしていただくていうのはすごくいいことかなと思っています。

最後になりましたが私どもとしましては、貧困状態のご家庭や生活が苦しいという方、発達障害の方など多様な方々をサポートしていく為に、色々な方と連携をしながら活動を進めていきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。